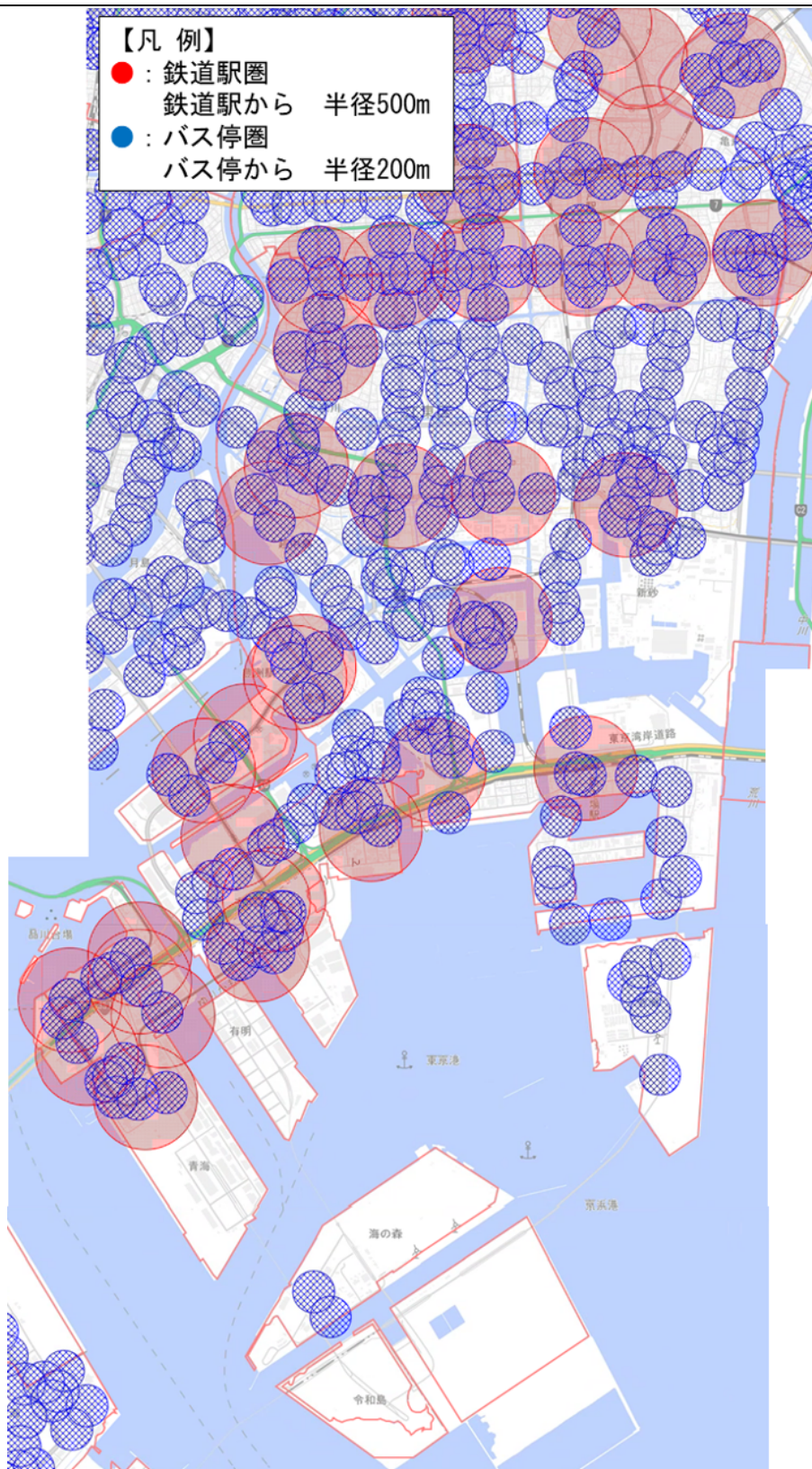


既存調査報告

1. 区内鉄道駅・バス停圏域について
 - 2-1. 江東区高齢者生活実態調査
(江東区介護予防・日常生活圏域二一ズ調査) 令和2年3月
 - 2-2. 江東区介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 令和3年3月
 3. 第24回 江東区政世論調査 令和元年12月
 4. 令和元年度江東区長期計画区民アンケート調査
- (参考) 第6回東京都市圏パーソントリップ調査

1. 区内鉄道駅・バス停圏域について

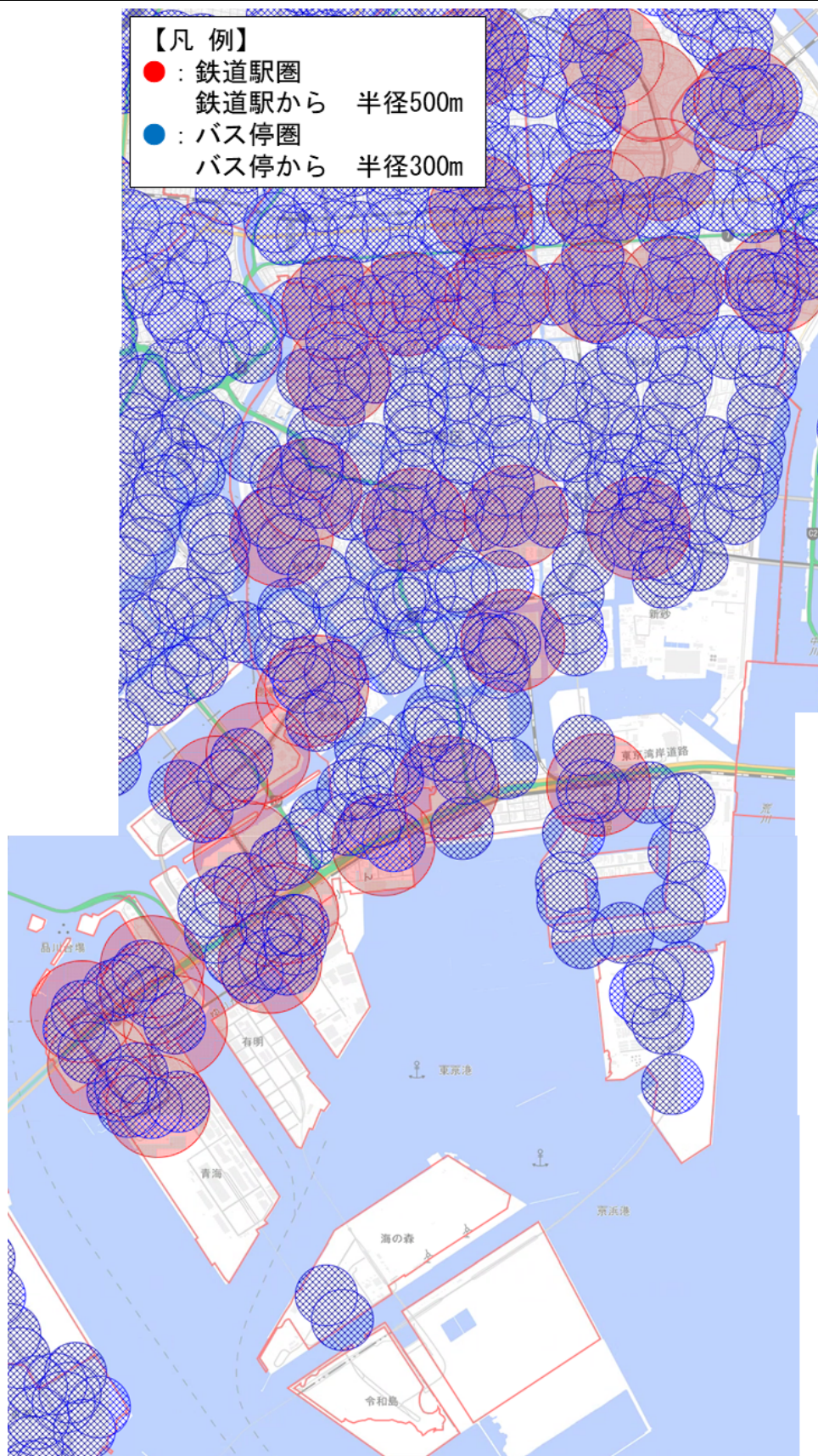
1 鉄道駅圏：半径500m バス停圏：半径200m



※区交通対策課にて加工・編集し作成。 出典：地図で見る統計（jSTAT MAP）(<https://jstatmap.e-stat.go.jp>)

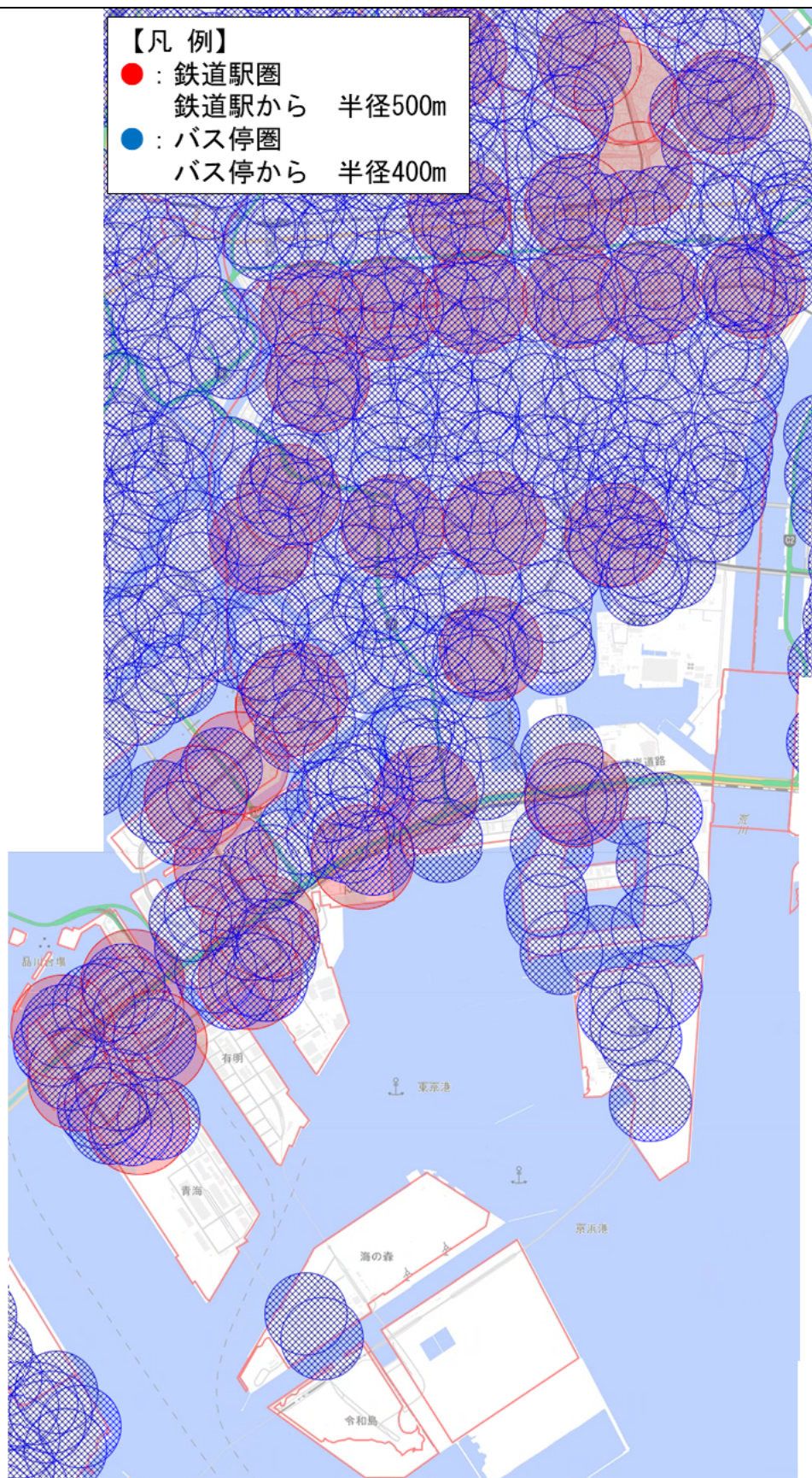
※バス停位置情報は東京公共交通オープンデータチャレンジ (<https://ckan-tokyochallenge.odpt.org>) より取得

2 鉄道駅圏：半径500m バス停圏：半径300m



※区交通対策課にて加工・編集し作成。 出典：地図で見る統計（jSTAT MAP）(<https://jstatmap.e-stat.go.jp>)
※バス停位置情報は東京公共交通オープンデータチャレンジ (<https://ckan-tokyochallenge.odpt.org>) より取得

3 鉄道駅圏：半径500m バス停圏：半径400m



※区交通対策課にて加工・編集し作成。 出典：地図で見る統計（jSTAT MAP）(<https://jstatmap.e-stat.go.jp>)
※バス停位置情報は東京公共交通オープンデータチャレンジ (<https://ckan-tokyochallenge.odpt.org>) より取得

2-1. 江東区高齢者生活実態調査

(江東区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査) 令和2年3月

1 調査概要

(1) 調査概要 江東区高齢者地域包括ケア計画(令和3～5年度)策定の基礎資料とするとともに、高齢者の意向を踏まえた今後の施策のあり方を検討するための調査。

(2) 調査対象 令和元年度

番号	調査種類	調査対象 (区在住の65歳以上の方)	配布数	有効 回収数	回収率
①	介護予防 ・日常生活圏域ニーズ 調査	要支援1・2の認定者	200	3,313	66.3%
		要介護・要支援認定を受けていない方(一般高齢者)	4,800		
②	介護サービスの利用 意向調査	要介護1～5の認定者	1,000	462	46.2%
③	在宅生活継続意向調査	要介護・要支援認定を受けていない方(一般高齢者)	1,500	948	63.2%
合計			7,500人	4,723	63.0%

2 調査結果概要(交通関連分野に限る)

- 15分程度歩くことのできる高齢者は、要介護・要支援を受けていない方で94.8%
- 外出を控えている13.8%のうち、「交通手段がない」と答えた方は3.9%であり、全体の0.5%程度である。
- 外出の際の移動手段は、徒歩、バス、鉄道、自転車、タクシーの順である。

3 調査結果

Ⅱ 調査結果の概要 調査① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

③ 15 分位続けて歩いているか

問2 (3) 15 分位続けて歩いていますか

(ひとつだけ○)

15 分位続けて歩いているかは、「できるし、している」(85.5%)、「できるけどしていない」(8.4%)、「できない」(4.8%)となっている。

調査対象別では、一般の方と比べ要支援1、要支援2の方で「できない」割合が高い。

年齢別では、85 歳を境に高齢の方ほど「できない」割合が高い。

図表 Ⅱ①-13 15 分位続けて歩いているか

		できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答	(%)
凡例						
全 体 (n= 3,313)		85.5	8.4	4.8	1.3	
調 査 対 象	要支援1 (n= 73)	63.0	15.1	19.2	2.7	
	要支援2 (n= 60)	51.7	13.3	31.7	3.3	
	一般 (n= 3,171)	86.7	8.1	4.0	1.3	
性 別	男性 (n= 1,494)	84.5	9.6	4.6	1.2	
	女性 (n= 1,810)	86.4	7.2	5.0	1.4	
年 齢	65～69歳 (n= 781)	88.1	8.6	2.4	0.9	
	70～74歳 (n= 856)	89.1	6.5	3.3	1.1	
	75～79歳 (n= 915)	85.4	8.3	4.4	2.0	
	80～84歳 (n= 497)	82.5	9.3	7.2	1.0	
	85～89歳 (n= 209)	75.6	10.5	11.5	2.4	
	90歳以上 (n= 46)	56.5	17.4	26.1	0.0	
世 帯 構 成	1人暮らし (n= 806)	86.8	7.8	4.1	1.2	
	夫婦2人暮らし(配偶者95歳以上) (n= 1,308)	86.2	8.9	4.2	0.7	
	夫婦2人暮らし(配偶者94歳以下) (n= 134)	88.8	9.0	0.7	1.5	
	息子・娘との2世帯 (n= 431)	84.0	8.1	7.2	0.7	
	その他 (n= 577)	85.4	7.8	5.9	0.9	
地 区	深川北 (n= 775)	85.4	7.9	5.5	1.2	
	深川南 (n= 712)	85.4	9.1	3.9	1.5	
	亀戸・大島 (n= 868)	85.3	8.2	4.8	1.7	
	砂町 (n= 949)	86.0	8.2	4.8	0.9	
ブ ロ ッ ク	深川北 (n= 455)	84.8	8.4	5.7	1.1	
	深川中央 (n= 525)	85.7	8.4	4.8	1.1	
	深川南 (n= 507)	85.6	8.7	3.9	1.8	
	亀戸 (n= 374)	85.6	7.8	4.5	2.1	
	大島 (n= 494)	85.0	8.5	5.1	1.4	
	南砂 (n= 472)	86.4	7.2	5.5	0.8	
	北砂 (n= 477)	85.5	9.2	4.2	1.0	

⑧ 外出を控えているか

問2 (8) 外出を控えていますか

(ひとつだけ○)

外出を控えているかは、全体の13.8%が「はい」＝外出を控えると回答。

調査対象別では、要支援の方、特に要支援2の方では「はい」＝外出を控える割合が高い。

年齢別では、高齢の方ほど外出を控える傾向が強くなっている。

図表 Ⅱ①-18 外出を控えているか

		はい	いいえ	無回答	(%)
凡例					
全 体 (n= 3,313)		13.8	84.3	1.9	
調 査 対 象	要支援1 (n= 73)	31.5	63.0	5.5	
	要支援2 (n= 60)	53.3	43.3	3.3	
	一般 (n= 3,171)	12.6	85.6	1.8	
	性別				
性 別	男性 (n= 1,494)	12.8	85.1	2.1	
	女性 (n= 1,810)	14.6	83.6	1.8	
年 齢	65～69歳 (n= 781)	8.2	90.4	1.4	
	70～74歳 (n= 856)	11.2	86.6	2.2	
	75～79歳 (n= 915)	13.2	84.8	2.0	
	80～84歳 (n= 497)	19.1	79.1	1.8	
	85～89歳 (n= 209)	30.6	66.5	2.9	
	90歳以上 (n= 46)	34.8	65.2	0.0	
世 帯 構 成	1人暮らし (n= 906)	15.1	82.8	2.1	
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n= 1,308)	13.7	84.6	1.7	
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n= 134)	11.9	86.6	1.5	
	息子・娘との2世帯 (n= 431)	14.4	84.5	1.2	
	その他 (n= 577)	12.1	85.4	2.4	
地 区	深川北 (n= 775)	14.7	83.7	1.5	
	深川南 (n= 712)	13.1	85.1	1.8	
	亀戸・大島 (n= 868)	13.7	83.9	2.4	
	砂町 (n= 949)	13.7	84.5	1.8	
ブ ロ ッ ク	深川北 (n= 455)	13.8	84.6	1.5	
	深川中央 (n= 525)	15.4	82.9	1.7	
	深川南 (n= 507)	12.4	85.8	1.8	
	亀戸 (n= 374)	11.2	85.8	2.9	
	大島 (n= 494)	15.6	82.4	2.0	
	南砂 (n= 472)	14.6	83.7	1.7	
	北砂 (n= 477)	12.8	85.3	1.9	

⑨ 外出を控えている理由

問2 【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか

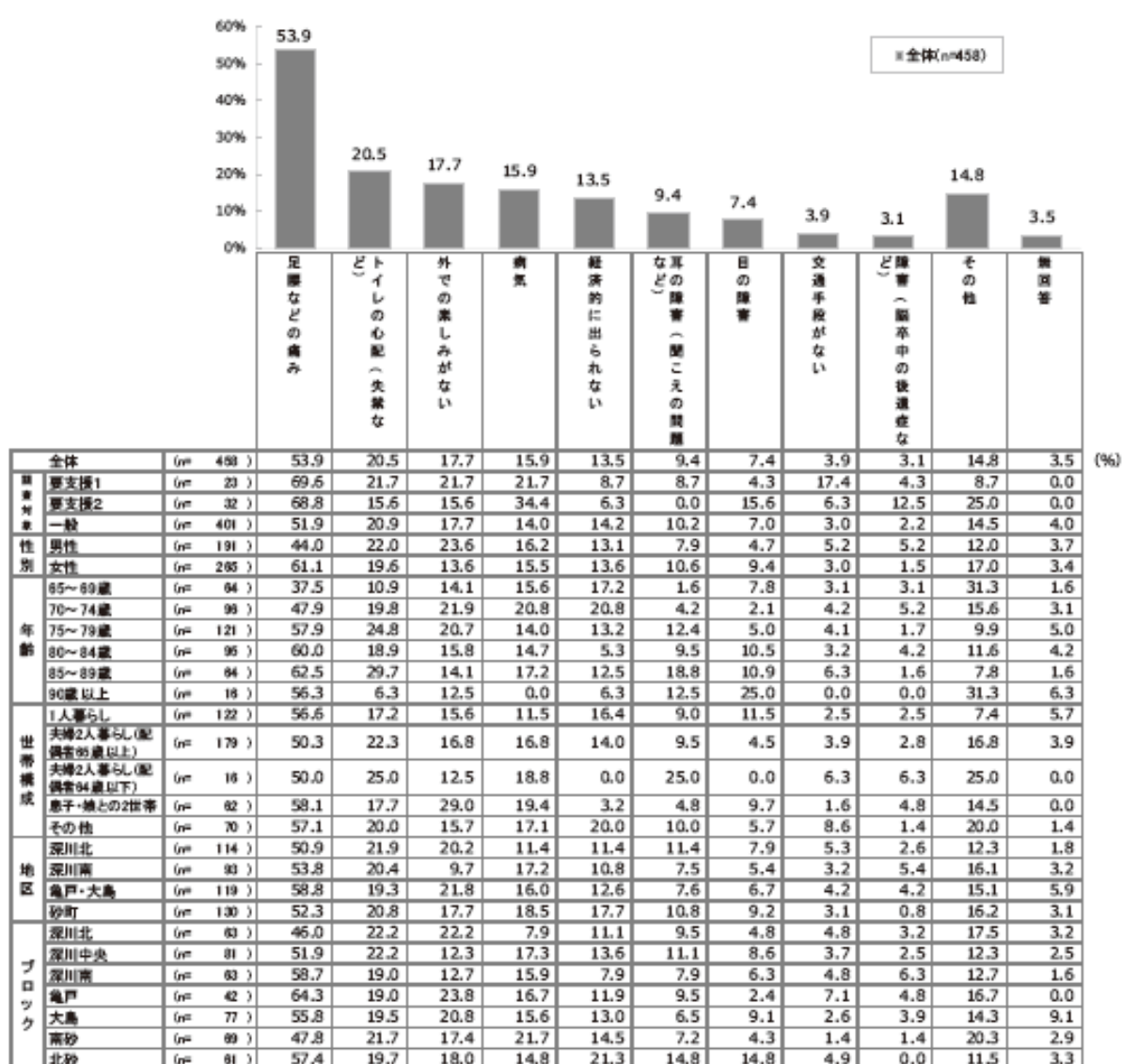
(いくつでも○)

外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」(53.9%)の割合が最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」20.5%、「外での楽しみがない」(17.7%)などとなっている。

性別では、「足腰などの痛み」は男性(44.0%)に比べて女性(61.1%)が高く、「外での楽しみがない」は、女性(13.6%)に比べ、男性(23.6%)に高い。

年齢別では、全体の理由として最も高い「足腰などの痛み」は80代に高い。また、85～89歳の方では「トイレの心配(失禁など)」が他の年代と比べ高い。

図表 II①-19 外出を控えている理由



⑩ 外出する際の移動手段

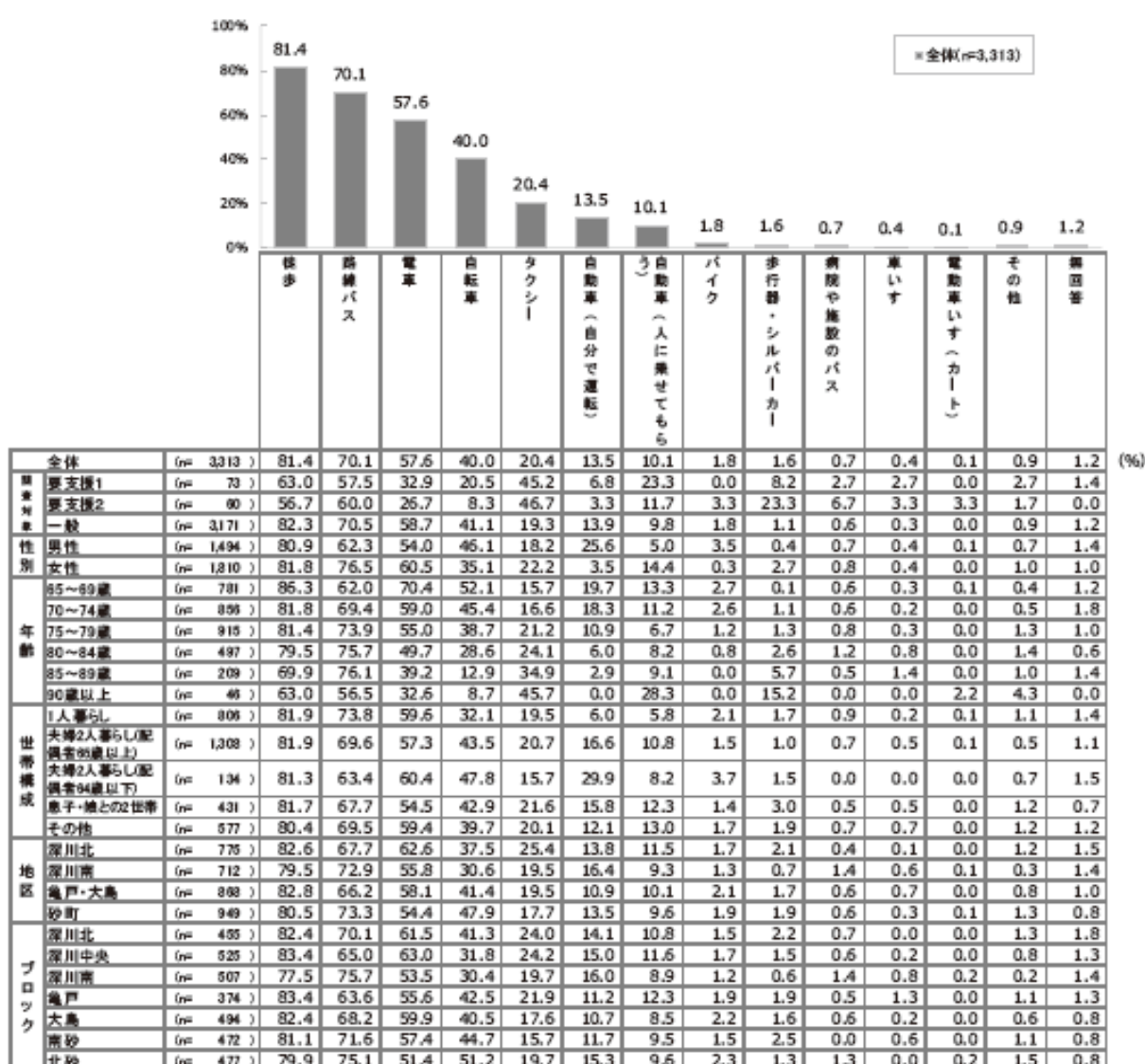
問2 (9) 外出する際の移動手段は何ですか

(いくつでも○)

外出する際の移動手段は、「徒歩」(81.4%)の割合が最も高く、次いで「路線バス」70.1%、「電車」(57.6%)、「自転車」(40.0%)などとなっている。

調査対象別では、一般の方の「徒歩」の割合が高いのに対して、要支援の方では「徒歩」の割合が低い。特に要支援の方では「路線バス」や「電車」といった交通機関の利用も低く、その代わり「タクシー」や「自動車(人に乗せてもらう)」といった移動手段の割合が一般の方と比べると高い。

図表 II①-20 外出する際の移動手段



④ バスや電車を使って1人で外出するか

問4 (4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)

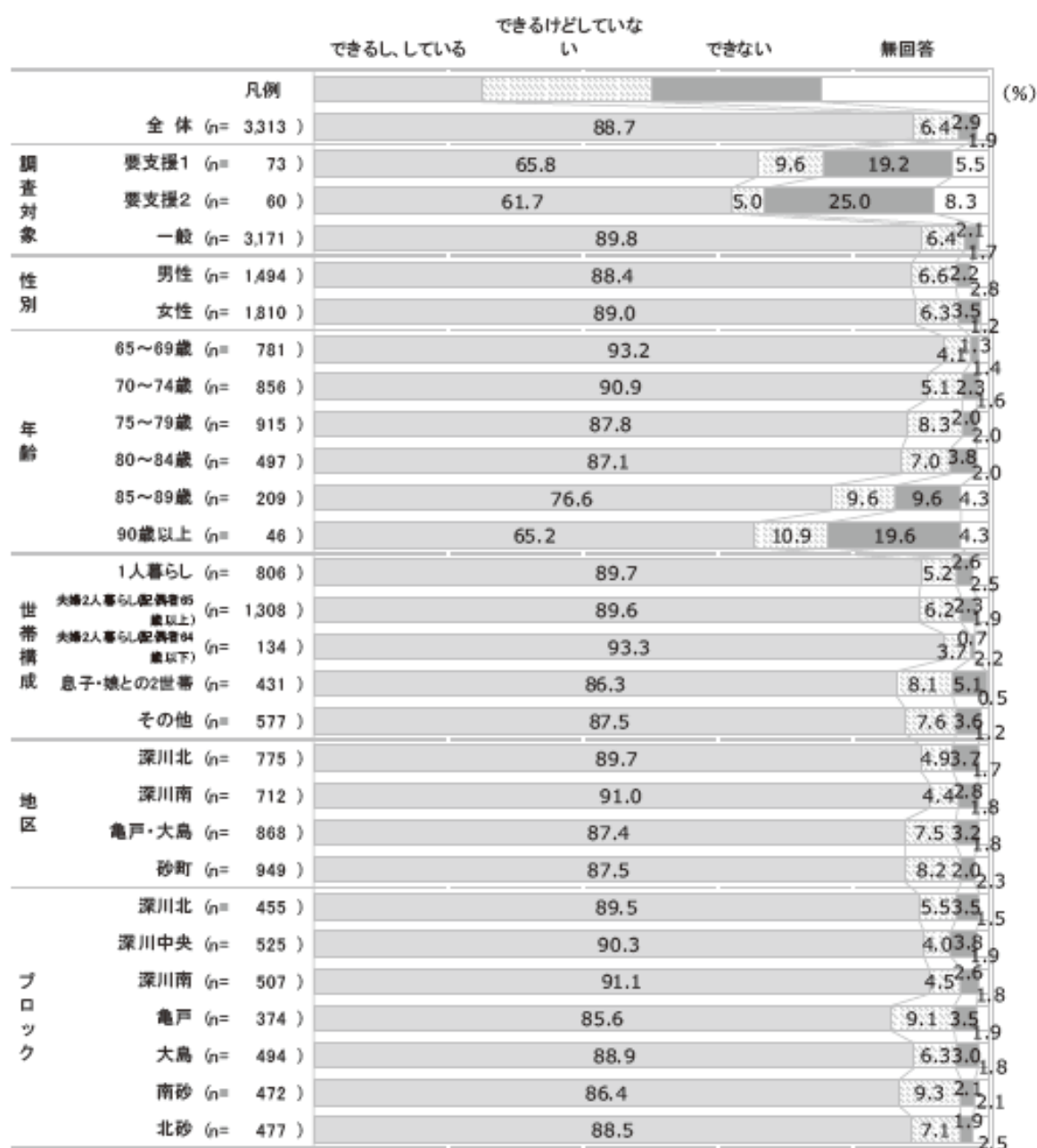
(ひとつだけ○)

バスや電車を使って1人で外出するかについては、「できるし、している」が全体の9割近く(88.7%)で、「できるけどしていない」は6.4%、「できない」は2.9%となっている。

調査対象別では、一般の方と比べ要支援の方では1人で外出が「できない」割合が高く、特に要支援2の方で高い。

年齢別では、高年齢の方ほど1人で外出が「できない」割合が高くなるが、一方で85～89歳の76.6%、90歳以上の65.2%は「できるし、している」と回答している。

図表 II①-39 バスや電車を使って1人で外出するか



⑤ 自分で食品・日用品の買物をしているか

問4 (5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

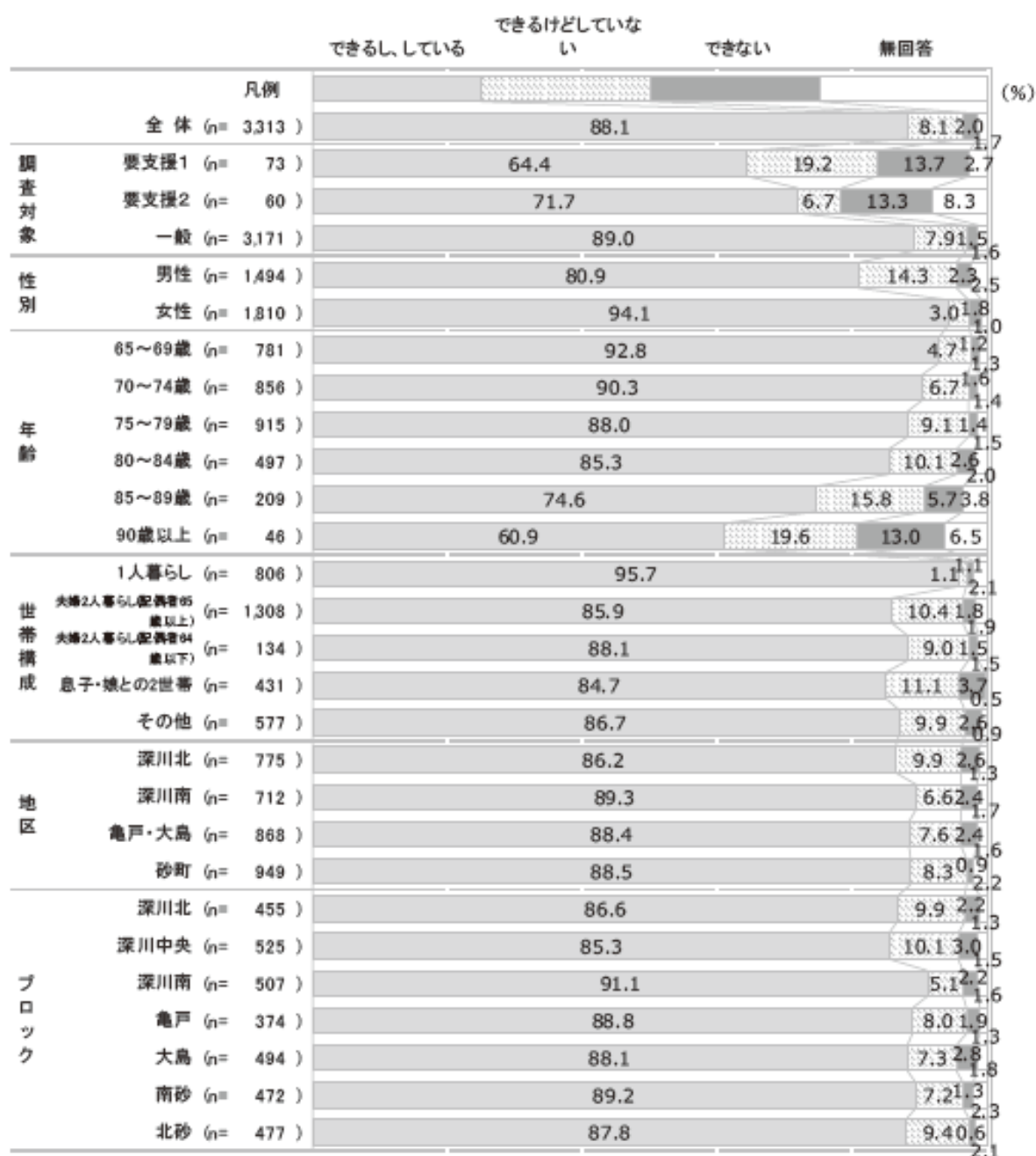
(ひとつだけ○)

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が全体の約9割(88.1%)で、「できるけどしていない」は8.1%、「できない」は2.0%となっている。

調査対象別では、一般の方では自分で買物が「できるし、している」が高いのに対して、要支援の方では「できない」割合が高い。

性別でみると、女性の9割以上は「できるし、している」(94.1%)と回答しているのに対して、男性は「できるし、している」(80.9%)、「できるけどしていない」(14.3%)である。

図表 II①-40 自分で食品・日用品の買物をしているか



2-2. 江東区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 令和3年3月

1 調査概要

(1) 調査概要 高齢者の心身や生活状況等を把握し、今後の高齢者施策を検討するための調査。

抽出方法：調査対象に該当する母集団から無作為に抽出

調査期間：令和2年11月16日（月）～令和2年12月1日（火）

調査方法：郵送配布、郵送回収

(2) 調査対象 令和2年度

調査名	調査対象 (区在住の65歳以上の方)	配布数	有効 回収数	回収率
介護予防 ・日常生活圏域ニーズ 調査	要支援1・2の認定者	300	3,704	74.1%
	要介護・要支援認定を受けていない方（一般高齢者）	4,700		
合計		5,000	3,704	74.1%

2 令和2年度調査新設質問

「日常的な外出（かかりつけ医への通院や、行きつけのスーパー・コンビニなどへの買い物など）時に、交通手段（電車・バス等）がない、または少ないことで生活に支障をきたすことがありますか 」

3 令和2年度調査新設質問 調査結果

Ⅱ 調査結果の概要

⑪ 外出時の交通手段に関する支障の有無

問2 (10) 日常的な外出(かかりつけ医への通院や、行きつけのスーパー・コンビニなどへの買い物など)時に、交通手段(電車・バス等)がない、または少ないことで生活に支障をきたすことがありますか (いくつかでも○)

外出時の交通手段に関する支障の有無は、「ほとんどない」(26.6%)、「ない」(57.9%)を合わせた『ない』が全体の8割台半ばとなっている。

調査対象別では、一般の方に比べ要支援の方で支障が「ある」と感じている割合が高い。

年齢別では、高年齢の方ほど支障を感じる割合が高くなっている。

図表 Ⅱ②-14 外出時の交通手段に関する支障有無

		ある	ときどきある	ほとんどない	ない	無回答	(%)
凡例							
調査対象	全体 (n=3,704)	4.6	7.6	26.6	57.9	3.3	
	要支援1 (n= 117)	11.1	17.9	30.8	34.2	6.0	
	要支援2 (n= 109)	25.7	25.7	20.2	19.3	9.2	
	一般 (n=3,473)	3.7	6.7	26.7	59.9	3.0	
性別	男性 (n=1,611)	3.7	7.4	25.0	60.9	3.0	
	女性 (n=2,088)	5.3	7.7	27.9	55.7	3.5	
年齢	65～69歳 (n= 811)	2.7	4.3	20.3	70.9	1.7	
	70～74歳 (n= 993)	4.0	6.6	27.3	60.2	1.8	
	75～79歳 (n= 933)	3.5	8.4	26.3	58.2	3.6	
	80～84歳 (n= 599)	6.2	9.3	31.1	47.6	5.8	
	85～89歳 (n= 294)	7.8	14.3	31.6	40.8	5.4	
	90歳以上 (n= 69)	20.3	5.8	34.8	31.9	7.2	
世帯構成	1人暮らし (n= 849)	4.7	8.6	29.6	53.0	4.1	
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n=1,478)	4.1	6.2	26.3	61.1	2.3	
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n= 163)	2.5	6.1	23.3	63.2	4.9	
	息子・娘との2世帯 (n= 466)	5.8	8.2	25.1	58.4	2.6	
	その他 (n= 590)	4.4	9.0	23.2	60.5	2.9	
地区	深川北 (n= 826)	4.0	6.7	23.8	61.3	4.2	
	深川南 (n= 838)	6.0	8.4	27.9	55.8	1.9	
	亀戸・大島 (n= 954)	3.5	7.9	28.1	57.9	2.7	
	砂町 (n=1,081)	4.9	7.5	26.4	57.1	4.2	
ブロック	深川北 (n= 491)	3.9	6.9	22.6	62.7	3.9	
	深川中央 (n= 579)	3.1	6.0	26.6	61.1	3.1	
	深川南 (n= 594)	7.7	9.4	27.9	52.5	2.4	
	亀戸 (n= 408)	4.2	9.8	27.7	55.6	2.7	
	大島 (n= 546)	2.9	6.4	28.4	59.5	2.7	
	南砂 (n= 546)	4.8	7.7	26.6	57.9	3.1	
	北砂 (n= 535)	5.0	7.3	26.2	56.3	5.2	

3. 第24回 江東区政世論調査 令和元年12月

1 調査概要

- (1) 調査概要 江東区政の各分野について区民の意識や動向、意見や要望などを把握することにより、今後の区政運営の参考に資する。
- (2) 調査対象 江東区全域の江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）
 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
 回収数：1,668人

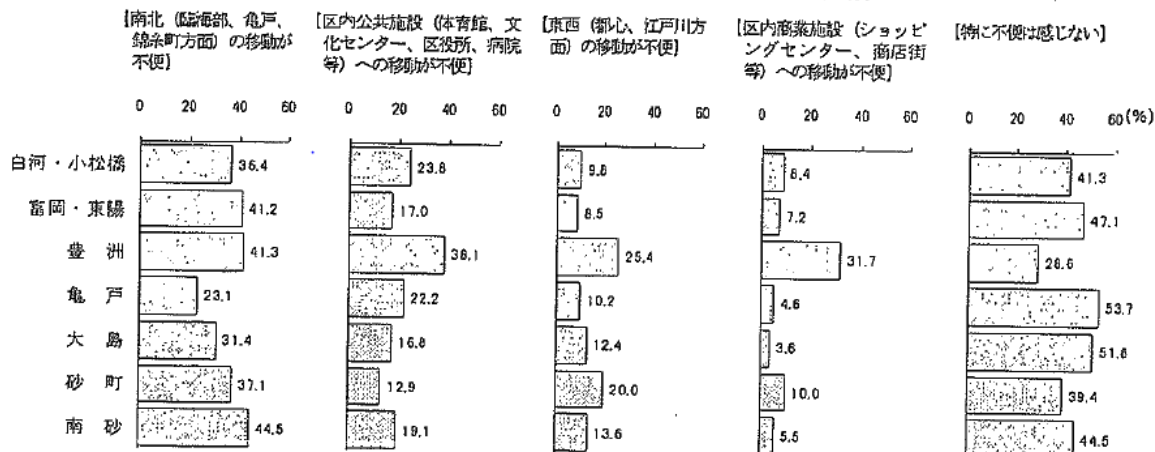
2 調査結果概要（交通関連分野に限る）

○砂町地区では、区内の公共交通について不便や不満を感じていない割合は34%であり、他地区に比べ特出した数値ではない。（区全体 31.7%）南北交通への不満は45.5%で豊洲地区に次いで2番目に不満をもっている地区である。区内公共施設・病院・商業施設への移動への不満は合わせて20.5%である。

（参考）平成13年度江東区政世論調査

下記はコミュニティバスしおかぜの導入検討時の集計結果である。コミュニティバスしおかぜが走る地域を含む豊洲地区での「不便や不満を感じていない割合」は28.6%であり、特出した数値であった。

図Ⅶ－1－2 公共交通機関の不便な点－地区別



3 調査結果

第4章 調査結果の分析〈4 交通〉

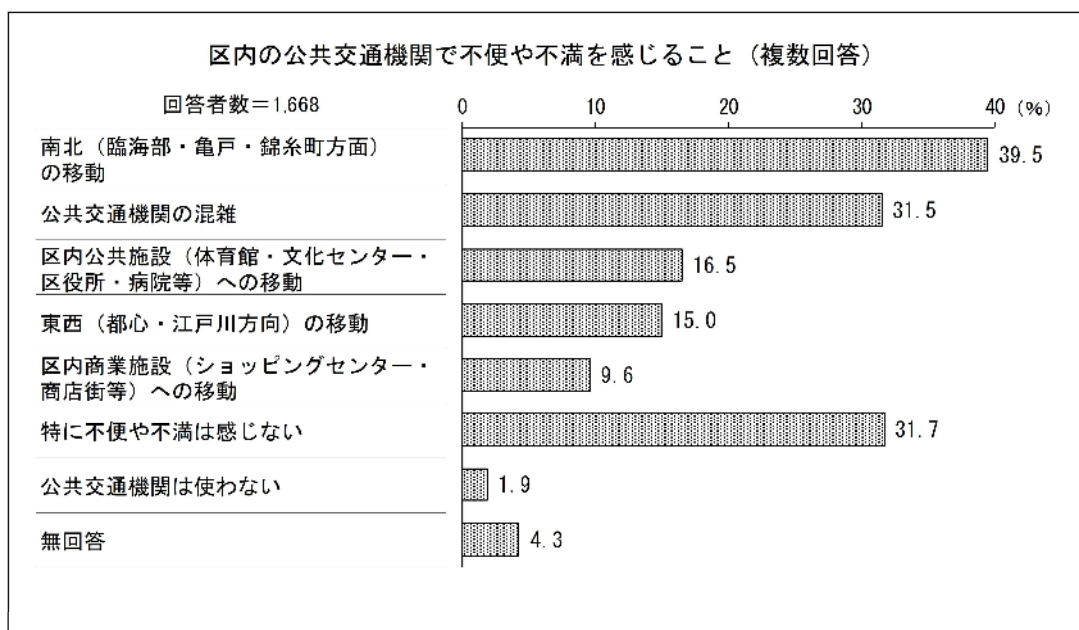
4 交通

（１）区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」が４割

問 8	あなたは、区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることはありませんか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。（回答者数＝1,668）
1	東西（都心・江戸川方向）の移動 15.0%
2	南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動 39.5%
3	区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動 16.5%
4	区内商業施設（ショッピングセンター・商店街等）への移動 9.6%
5	公共交通機関の混雑 31.5%
6	特に不便や不満は感じない 31.7%
7	公共交通機関は使わない 1.9%
	無回答 4.3%

区内の鉄道・バス等の公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（39.5%）が４割で最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（31.5%）、「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動」（16.5%）と続いている。一方、「特に不便や不満は感じない」（31.7%）は３割を超えている。



第4章 調査結果の分析〈4 交通〉

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること―地区

地区でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は豊洲地区で5割近くとなっている。「不便や不満は感じない」は豊洲地区を除いてほぼ3割前後となっている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること―地区

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は 感じない	公共交通機関は 使わない
全体		1,668	南北の移動 39.5	公共交通機関の 混雑 31.5	区内公共施設 への移動 16.5	東西の移動 15.0	区内商業施設 への移動 9.6	31.7	1.9
地区	白河・小松橋	279	南北の移動 31.9	公共交通機関の 混雑 21.5	区内公共施設 への移動 16.1	区内商業施設 への移動 13.6	東西の移動 13.3	35.1	3.2
	富岡・東陽	253	公共交通機関の 混雑 36.8	南北の移動 31.6	区内公共施設 への移動 12.6	東西の移動 11.9	区内商業施設 への移動 8.3	34.0	0.4
	豊洲	339	南北の移動 48.1	公共交通機関の 混雑 26.3	区内公共施設 への移動 23.3	東西の移動 21.8	区内商業施設 への移動 12.4	23.9	1.5
	亀戸	180	南北の移動 39.4	公共交通機関の 混雑 32.2	区内公共施設 への移動 16.1	東西の移動 12.2	区内商業施設 への移動 8.3	31.1	3.9
	大島	200	南北の移動 39.0	公共交通機関の 混雑 32.5	区内公共施設 への移動 16.5	東西の移動 10.5	区内商業施設 への移動 8.0	36.0	2.0
	砂町	244	南北の移動 45.5	公共交通機関の 混雑 36.1	東西の移動 14.3	区内公共施設 への移動 12.7	区内商業施設 への移動 7.8	34.0	2.0
	南砂	146	公共交通機関の 混雑 45.2	南北の移動 44.5	東西の移動 19.9	区内公共施設 への移動 15.1	区内商業施設 への移動 5.5	28.8	0.0

第4章 調査結果の分析（4 交通）

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

性別でみると、「区内公共施設（体育館・文化センター・区役所・病院等）への移動」は女性の方が男性より5ポイント高くなっている。

性別×年齢でみると、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」は男性40～49歳で5割を超えている。

区内の公共交通機関で不便や不満を感じること－性別／年齢／性別×年齢

		回答者数	1位	2位	3位	4位	5位	不便や不満は 感じない	公共交通機関は 使わない
全体		1,668	南北の移動 39.5	公共交通機関 の混雑 31.5	区内公共施設 への移動 16.5	東西の移動 15.0	区内商業施設 への移動 9.6	27.8	6.5
性別	男性	728	南北の移動 41.8	公共交通機関 の混雑 32.1	東西の移動／区内公共施設 への移動 13.7	区内商業施設 への移動 9.1		21.4	1.4
	女性	920	南北の移動 38.2	公共交通機関 の混雑 31.0	区内公共施設 への移動 18.6	東西の移動 16.0	区内商業施設 への移動 9.9	52.1	2.1
年齢	18～29歳	154	南北の移動 37.0	公共交通機関 の混雑 33.8	東西の移動 15.6	区内公共施設 への移動 7.8	区内商業施設 への移動 6.5	22.5	2.2
	30～39歳	246	南北の移動 42.3	公共交通機関 の混雑 35.0	東西の移動 18.3	区内公共施設 への移動 14.6	区内商業施設 への移動 10.2	21.3	1.3
	40～49歳	359	南北の移動 48.5	公共交通機関 の混雑 38.7	東西の移動 17.5	区内公共施設 への移動 17.3	区内商業施設 への移動 10.0	50.0	1.9
	50～59歳	295	南北の移動 47.8	公共交通機関 の混雑 36.6	区内公共施設 への移動 15.9	東西の移動 15.6	区内商業施設 への移動 10.2	21.4	1.4
	60～69歳	240	南北の移動 35.8	公共交通機関 の混雑 29.6	区内公共施設 への移動 15.8	東西の移動 12.5	区内商業施設 への移動 5.4	38.3	1.7
	70歳以上	354	南北の移動 26.3	区内公共施設 への移動 21.5	公共交通機関 の混雑 17.8	区内商業施設 への移動 12.1	東西の移動 11.0	50.8	2.0
	70歳以上	354	南北の移動 26.3	区内公共施設 への移動 21.5	公共交通機関 の混雑 17.8	区内商業施設 への移動 12.1	東西の移動 11.0	50.8	2.0
性別× 年齢	18～29歳	76	南北の移動／公共交通機関 の混雑 35.5	公共交通機関 の混雑 35.5	東西の移動 10.5	区内公共施設への移動／区内 商業施設への移動 3.9		28.9	2.6
	30～39歳	108	公共交通機関 の混雑 37.0	南北の移動 36.1	東西の移動／区内公共施設 への移動 13.9	区内商業施設 への移動 10.2		27.8	6.5
	40～49歳	158	南北の移動 51.3	公共交通機関 の混雑 38.1	東西の移動 19.0	区内公共施設 への移動 13.3	区内商業施設 への移動 9.5	25.3	1.3
	50～59歳	145	南北の移動 49.7	公共交通機関 の混雑 37.2	東西の移動 14.5	区内商業施設 への移動 11.0	区内公共施設 への移動 10.3	21.4	1.4
	60～69歳	97	南北の移動 39.2	公共交通機関 の混雑 32.0	区内公共施設 への移動 17.5	東西の移動 12.4	区内商業施設 への移動 5.2	40.2	3.1
	70歳以上	144	南北の移動 32.6	区内公共施設 への移動 20.1	公共交通機関 の混雑 17.4	区内商業施設 への移動 11.1	東西の移動 9.7	52.1	2.1
	70歳以上	144	南北の移動 32.6	区内公共施設 への移動 20.1	公共交通機関 の混雑 17.4	区内商業施設 への移動 11.1	東西の移動 9.7	52.1	2.1
女性× 年齢	18～29歳	77	南北の移動 37.7	公共交通機関 の混雑 31.2	東西の移動 19.5	区内公共施設 への移動 10.4	区内商業施設 への移動 7.8	31.2	2.6
	30～39歳	138	南北の移動 47.1	公共交通機関 の混雑 33.3	東西の移動 21.7	区内公共施設 への移動 15.2	区内商業施設 への移動 10.1	22.5	2.2
	40～49歳	201	南北の移動 46.3	公共交通機関 の混雑 40.8	区内公共施設 への移動 20.4	東西の移動 16.4	区内商業施設 への移動 10.4	20.9	0.0
	50～59歳	150	南北の移動 46.0	公共交通機関 の混雑 36.0	区内公共施設 への移動 21.3	東西の移動 16.7	区内商業施設 への移動 9.3	21.3	1.3
	60～69歳	143	南北の移動 33.6	公共交通機関 の混雑 28.0	区内公共施設 への移動 14.7	東西の移動 12.6	区内商業施設 への移動 5.6	37.1	0.7
	70歳以上	210	区内公共施設 への移動 22.4	南北の移動 21.9	公共交通機関 の混雑 18.1	区内商業施設 への移動 12.9	東西の移動 11.9	50.0	1.9
	70歳以上	210	区内公共施設 への移動 22.4	南北の移動 21.9	公共交通機関 の混雑 18.1	区内商業施設 への移動 12.9	東西の移動 11.9	50.0	1.9

4. 令和元年度江東区長期計画区民アンケート調査

1 調査概要

- (1) 調査概要 本調査は「江東区長期計画（令和2～11年度）」において、各施策に設定する成果指標のうち、区民の意識や生活実態に基づくものについて、その現状値を把握することを目的に実施した。
- (2) 調査対象 区内居住の18歳以上の男女（令和元年8月1日時点での満年齢）
標本数 3,000 票
有効回答数 1,457 票

2 調査結果概要

○砂町地区における区内の移動環境に対する区民の満足度について、54.4%の方が満足していると考えることができる。他地区と比較して、特出して不満があるわけではない。（区全体 59.6%）

3 調査結果

■問34 便利で安全な道路・交通網の整備：施策24（詳細はP97）	
指標名：	区内の移動環境に対する区民の満足度
算出方法：	「1. そう思う」及び「2. どちらかといえばそう思う」の割合を算出
指標値：	59.5%

図表Ⅲ－34 便利で安全な道路・交通網の整備：施策24 集計結果

n=1,450	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともい えない	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	わからない
回答数	314	549	192	202	169	24
割合	21.7	37.9	13.2	13.9	11.7	1.7

無回答：7

【便利で安全な道路・交通網の整備】

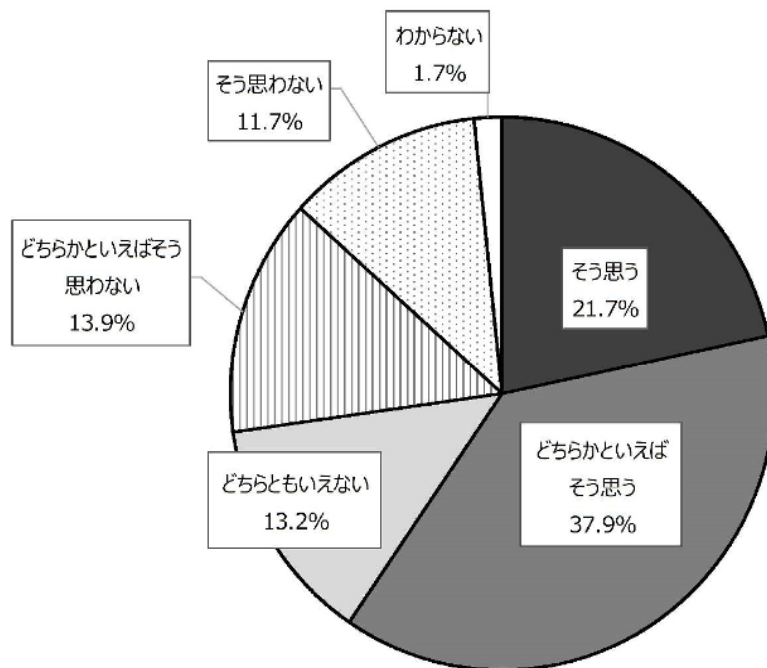
問 34 あなたは、江東区内を便利で快適に移動できると思いますか。あてはまるものを選び○印をおつけください。(○は1つ)

<全体>

- ・ 「どちらかといえばそう思う」が37.9%と最も高く、次いで「そう思う」(21.7%)となっている。これらを合わせた『そう思う(計)』は59.6%となっている。

図表Ⅳ-105 公共交通による移動の利便性

n=1,450



① 地区別

- ・ 地区別では、『そう思う(計)』の割合は、白河地区(70.3%)、富岡地区(72.3%)、東陽地区(65.3%)、大島地区(61.0%)で全体を上回っている。

図表Ⅳ-106 地区別公共交通による移動の利便性

(%)

	n	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらともいえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
全体	1,450	21.7	37.9	13.2	13.9	11.7	1.7
白河	138	26.1	44.2	5.8	13.8	7.2	2.9
小松橋	105	22.9	34.3	13.3	15.2	12.4	1.9
富岡	112	32.1	40.2	8.9	8.9	7.1	2.7
東陽	118	24.6	40.7	16.9	5.9	10.2	1.7
豊洲	312	16.0	40.7	11.5	17.0	13.1	1.6
亀戸	151	14.6	35.8	11.9	17.9	17.9	2.0
大島	174	23.6	37.4	16.1	11.5	10.9	0.6
砂町	219	21.5	32.9	17.8	13.7	12.3	1.8
南砂	117	23.1	35.0	14.5	17.1	10.3	0.0
居住地区不詳	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

※塗りつぶしをしている項目は、その区分の上位2つまでの項目を示している。

(参考) 第 6 回東京都市圏パーソントリップ調査

1 パーソントリップ調査

(1) パーソントリップ調査とは

パーソントリップ調査は、人（パーソン）の1日のすべての移動（トリップ）を把握する調査であり、将来のまちづくりや交通計画などを検討するための基礎資料を得ることを目的としている。調査では、「どのような人が」、「どのような時間帯に」、「どのような目的で」、「どのような交通手段で」、「どこからどこへ」移動したかなどを調査する。東京都市圏では、10年に一度、東京都市圏交通計画協議会が実施している。

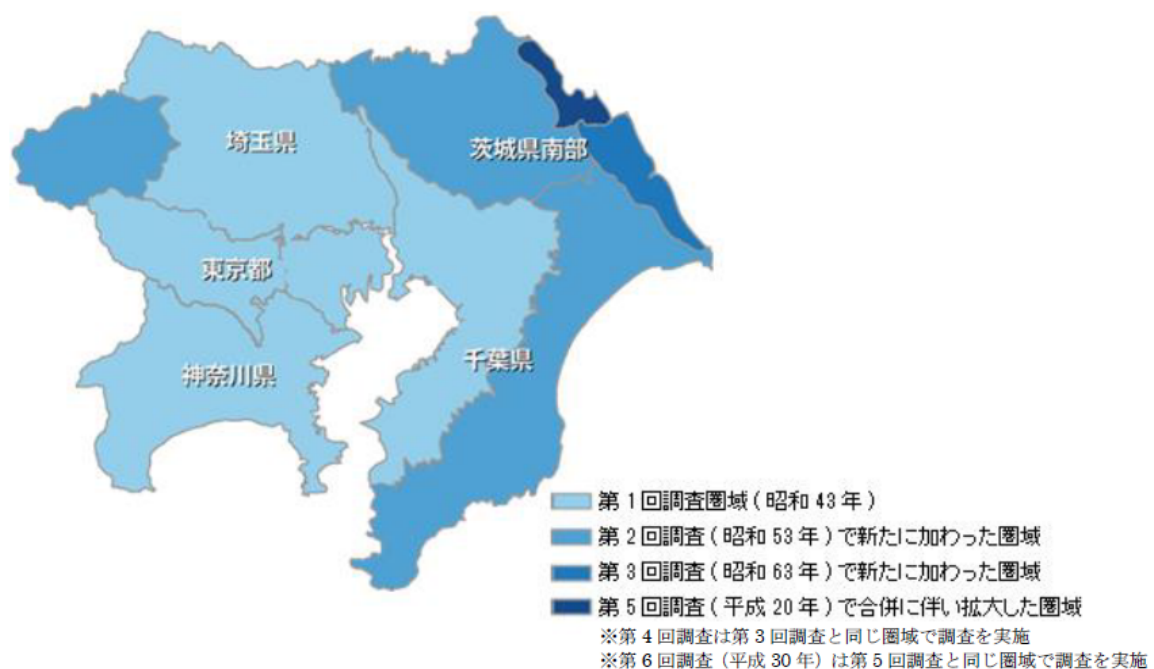
(2) 調査期間

調査は、平30年9月から11月にかけて実施

（調査の対象となる日は、調査期間のうち指定された平日1日）

(3) 調査対象地域

調査の対象地域は「東京都市圏」である。東京都市圏は、東京都（島しょ部を除く）、神奈川県、埼玉県、千葉県全域及び茨城県南部地域



(4) 調査対象者

住民基本台帳から5歳以上を無作為に抽出（約16万世帯、約31万人の方から回答）

2 東京都市圏と江東区の集計結果比較 概要

特徴のある項目	東京都市圏	江東区
①総移動回数	総移動回数（総トリップ数）【7,373万トリップ】が調査開始以来、初めて減少に転じ、前回平成20年から約13%減少	総移動回数（総トリップ数）【103.8万トリップ】が減少し、前回平成20年から約3%減少（人口は18%増加）
②外出率と1人1日あたりトリップ数	外出率【76.6%】と1人1日当たりのトリップ数【2.61トリップ/人】は、調査開始以来で最低	外出率【79.8%】と1人1日当たりのトリップ数【2.63トリップ/人】は、調査開始以来で最低
③年齢別外出率	外出率はすべての年齢階層で減少、自営業や専業主婦等で大きく減少	外出率は、80歳以上を除くすべての年齢階層で減少、自営業や専業主婦等で大きく減少
④目的別1人1日あたりトリップ数	1人1日当たりのトリップ数は、業務目的と私事目的で減少、通勤目的で増加	1人1日当たりのトリップ数は、業務目的で減少、通勤目的で増加。また女性の私事目的が特に減少
⑤代表交通手段分担率	代表交通手段分担率は、鉄道について東京区部で増加【51%】及びその周辺でも増加、郊外部では自動車の割合が高くかつ増加	代表交通手段分担率は、鉄道が増加【46%】、自動車は減少【10%】
⑥時間帯別トリップ数	時間帯別トリップ数は、朝ピーク時は横ばい、昼間以降は減少	時間帯別トリップ数は、朝夕ピーク時に増加し、昼間は減少
⑦移動時間別トリップ数	移動時間30分未満のトリップ数は減少、30分以上のトリップ数はほぼ横ばい	※データ不足のため、江東区内について集計できず

3 第6回東京都市圏パーソントリップ調査集計結果概要（国土交通省報道発表資料）



国土交通省 関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau

令和元年11月27日（水）
国土交通省関東地方整備局企画部
（東京都市圏交通計画協議会 事務局）

記者発表資料

総移動回数が調査開始以来、初めて減少

－ 第6回東京都市圏パーソントリップ調査の集計結果概要について －

平成30年9月から11月にかけて「人の動き」を調査する「第6回東京都市圏パーソントリップ調査」を実施し、この度、調査データの集計結果の概要がまとまりましたのでお知らせします。実施にあたっては、約16万世帯、約31万人の方から回答をいただきました。調査対象者の皆様にはご協力いただき、誠にありがとうございました。

<集計結果概要>

今回の調査結果の特徴は以下の7点です。

- ①総移動回数（総トリップ数）が調査開始以来、初めて減少に転じ、前回平成20年から約13%減少（P3）
- ②外出率と1人1日当たりのトリップ数は、調査開始以来で最低（P3）
- ③外出率はすべての年齢階層で減少、自営業や専業主婦等で大きく減少（P4）
- ④1人1日当たりのトリップ数は、業務目的と私事目的で減少、通勤目的で増加（P5）
- ⑤代表交通手段分担率は、東京区部及びその周辺では鉄道が増加、郊外部では自動車の割合が高くかつ増加（P11）
- ⑥時間帯別トリップ数は、朝ピーク時は横ばい、昼間以降は減少（P12）
- ⑦移動時間30分未満のトリップ数は減少、30分以上のトリップ数はほぼ横ばい（P13）

<基礎集計結果の公表>

第6回東京都市圏パーソントリップ調査の基礎集計結果は11月27日より順次、東京都市圏交通計画協議会ホームページにて公表します。

東京都市圏交通計画協議会（<https://www.tokyo-pt.jp/>）

国土交通省関東地方整備局、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、
横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市、独立行政法人都市再生機構、
東日本高速道路株式会社関東支社、首都高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社東京支社

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、茨城県政記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、
千葉県政記者会、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、神奈川建設記者会、
横浜市政記者会、横浜ラジオ・テレビ記者会、川崎記者クラブ、
相模原記者クラブ、千葉市政記者会、さいたま市政記者クラブ

問い合わせ先

〔東京都市圏交通計画協議会 事務局〕

国土交通省 関東地方整備局 企画部 広域計画課

TEL048-601-3151

課長

丸山 昌宏

課長補佐

町田 悦幸